

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成28年10月14日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 地球環境学舎環境マネジメント専攻

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 KIEU THI KINH

助成の種類	平成28年度・国際研究集会発表助成/若手		
研究集会名	オーストラリア環境教育学会2016年大会 19th Biennial Conference 2016 “TomorrowMaking - Our present to the future”		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )		
発表題目	ベトナム中部の教員研修機関における青年同盟のサステナビリティ教育への貢献 (英文) Contribution of Youth Union in Promotion of Sustainability at Teacher Education Institutions in Central Vietnam		
開催場所	オーストラリア・南オーストラリア州・アデレード・アデレード高校		
渡航期間	平成28年10月3日 ~ 平成28年10月9日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000円	
	使用した助成金額	250,000円	
	返納すべき助成金額	0	
	助成金の使途内訳	航空券代: ¥150,000	
		日当: ¥25,000	
		宿泊: ¥30,000	
国際会議参加費: ¥32,000			
	VISA申請料: ¥13,000		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 京都大学教育研究振興財団助成事業には国際会議への参加費助成をしていただき、本当に感謝しております。この19th Biennial Conference 2016 “TomorrowMaking - Our present to the future”において、無事に博士課程研究を発表し、また環境教育と持続可能な教育に関する深い知識を得られたと感じております。		

## 成果の概要／KIEU THI KINH

### 1. 発表概要

発表では主に以下の5つの項目について述べた。

- 1) 研究の背景：主に持続可能な開発に関する教育の概要を、ベトナムにおける教員研修と、ベトナムの若者の政治組織である Youth Union の観点から述べた。
- 2) 事例紹介：研究対象であるダナン教育大学はベトナムの7つの教員研修組織の1つである。この教員研修組織には12の学部と268名の専門家が在籍をしており、27の学部プログラムと9の大学院プログラムがある。この大学には8764の学部生と578名の大学院生が在籍しており、プログラム実施のために地元コミュニティや NGO、そして外国の教育機関等との連携を行っている。
- 3) 研究手法：本研究を実施するにあたり、2つの手法を採用した。一つは、ダナン教育大学の Youth Union の4名のリーダーへのインタビュー調査、もう一つは、質問票を用いた調査である。質問紙調査では、まず120名の学生に対して彼らが行う課外活動について調査をし、120名から40名を抽出し、Youth Union が持続可能性に対する認知に与える影響について調査を行った。
- 4) 結果と考察: Youth Union がいくつかの環境キャンペーンを行いダナン教育大学の学生の意識を高めていることがわかった。特にグリーン・サマーという地域コミュニティに滞在しながら行う活動が最も成功していることがわかった。一方で清掃活動のみでは学生の持続可能性に対する認知に影響は見られなかった。したがって、Youth Union は学生の自立と創造を促進するような持続可能性に関連した活動を推進していくための改革が必要であるということが出来る。
- 5) 結論：Youth Union は活発な市民を育てていく上で重要な役割を果たしている一方で、環境関連のキャンペーンはより多様で学生のニーズに合わせた形へと改善を行う必要がある。

### 2. 会議への参加を通して

オーストラリア環境教育協会が主催する 19th Biennial Conference 2016 に参加できたことは私にとって非常に意義があった。会議は主にオーストラリアにおいて、環境教育や持続可能性にかかわる教育者と研究者が集う場所であり、特に持続可能な開発に関する教育のイニシアチブと教育手法について学ぶ非常に大きな機会であった。また、会場にはオーストラリア国外からの参加者は少なかったが、一方でプレゼンテーションや全大会、ワークショップにおいて、すべての参加者が参加しやすいようにプログラムされていた。

私の発表は“若者の持続可能性への参加”というセッションで行われた。通常の学術会議とは異なり、この会議では発表後に参加者はおよそ5人の小さなグループにわけられ、このセッションのテーマについて意見交換、それぞれの発表からの重要な発見、解決策の提案や発表の内容に関する質問等が行われた。私はこのグループディスカッションで Youth Union とトップダウンアプローチについての質問を受けた。特に、どのように持続可能性に関連する活動を改革していけるのか、若者へどのようなエンパワーメントができるのか、そして学生が求める環境ボランティアと実際とのギャップ、などである。また、スウィンバーン工科大学の Francois 教授がベトナムのトラバン大学の学生と行った活動について経験を共有してくれた。彼はオーストラリアの学生をベトナムへ送り、オーストラリアの学生自身が持続可能性と発展途上国におけるチャレンジを理解する機会を持つことが重要だと述べていた。また、もう一人の発表者であった Lena 氏も興味深い知見を持っており、私は彼女の NGO である Ozgreen にコンタクトをとり、学生の環境に対する意識を高めるオンライン研修コースを実施することを提案したい。

それが、オーストラリアやバングラデシュの学生との交流の機会になるとも考えている。



図 1. グループディスカッションの様子

ポスタープレゼンテーションが随時行われていた。NGO や地域コミュニティ、持続可能性に関連した取り組みを行う企業がそれぞれの創造的な取り組みを展示していた。その中には、子ども向けの教育教材もあり、そのデザインやノンフォーマル教育の取り組みは非常に私の興味を引いた。



図 2. ポスターセッション

こうした会議場での活動とは別に、私は植物園と海洋センターへのスタディーツアーにも参加した。これらはアデレードにおいて、子どもたちが環境について学ぶ非常に重要な施設と位置づけられており、様々なビジュアル教材、ゲーム等があり、自然に対し人間社会が与える影響等がわかりやすく展示されていた。



図 3. 海洋センターと植物園

### 3. 今後の研究

博士課程修了後、私は自国であるベトナムへ帰国し、環境教育に取り組む教育者として働くことを計画している。したがって、今回の会議への参加は私にベトナムで働くことへの非常に高いモチベーションを与えてくれた。オーストラリアの研究者や教育者からの学びを私自身が将来行うであろう講義にも活用し、持続可能な開発に関する教育を通して学生のモチベーションを高めていくことに取り組みたい。そして、この会議での参加者とのつながりを維持し、将来的にはオーストラリアとベトナム双方の学生をエンパワーメントするための協働を行うことを目指していきたい。